

環境活動レポート

“各人が無理なく無駄なく...自分の行動が環境にとってどうなのか”

群馬セキ販売株式会社

作成：2018年3月15日

対象期間：2017年1～12月

目次

◇企業理念・環境方針	-----	2
◇事業活動の概要	-----	3～5
◇環境活動の実施体制	-----	6
◇環境活動計画	-----	7
◇環境目標(本社)	-----	8
◇環境目標(営業所)	-----	9
◇環境活動取組結果	-----	10～11
◇環境活動取組評価	-----	12～14
◇環境関連法規への違反、訴訟の有無	-----	15
◇代表者による総評	-----	16

企業理念

私たち群馬中セキは、農業機械と農業関連商品（製品）の販売やアフターサービスを通じて、季節の移り変わりや、太陽と水、そして、大地の恵と言った地球の自然と深く関わる農業と共に生きております。私たちは農業を支援することで日本の食を守り、より安全な食材を消費者に供給する一端を担うことが使命であると考えております。そのために環境に優しい事業活動を行うとともに、我々の事業活動が、地域社会や地球環境と深く関わり合っていることを認識し、お客様や地域との相互信頼のもとに、事業活動を通じて環境の維持、改善に積極的に取り組み、考え、行動することで、環境に対する継続的改善を実行することを目指します。

環境方針

- 1、環境に関連する法規制等を遵守します。
- 2、環境マネジメントシステム(EA-21 の考え方)を効果的に運用し環境問題のリスクを回避します。
- 3、環境保全のため、次の重点事項の取り組みを行います。
 - 1)当社本社事務所にかかる資源・エネルギーの削減に取り組みます。
 - 2)廃棄物の削減に努めます。
 - 3)水使用量の抑制と適正使用に努めます。
- 4、当社本社事務所の環境レポートを公表し、環境システムを継続的に改善しながら環境コミュニケーションの積極的なレベルアップを行います。
- 5、農業の環境に及ぼす影響を農業機械・資材の販売を通して最小限に抑えるための支援を行っていきます。

この環境方針は、要求があった場合、社外の人にも公開します。

平成 24 年 4 月 1 日

群馬中セキ販売(株)最高責任者
代表取締役 木村 英男

事業活動の概要

(1) 事業社名及び代表者名

群馬中セキ販売株式会社

代表取締役 木村英男

(2) 所在地

本社__前橋市天川大島町 116

(3) 営業拠点

前橋営業所__前橋市天川大島町 116

高崎営業所__高崎市木部町 356-1

太田営業所__太田市西本町 40-35

嬭恋営業所__吾妻郡嬭恋村大笹 188-1

伊勢崎営業所__伊勢崎市連取町 1815

渋川営業所__渋川市半田 2730-3

館林営業所__邑楽郡板倉町西岡 400-1

宮城営業所__前橋市柏倉町 371-1

赤堀営業所__伊勢崎市赤堀今井町二丁目 1286-5

昭和村営業所__利根郡昭和村糸井 6441-40

西部営業所__富岡市藤木日影 257-1

育苗センター__渋川市赤城町栄 793-1

系統推進部__前橋市亀里町 1307-1



事業活動の概要

(4)環境保全関係の最高責任者・管理責任者及び連絡先

最高責任者	木村 英男	代表取締役
環境管理責任者	佐藤 幸治	取締役
連絡先	電話	027-263-3211
	FAX	027-263-1154

(5)事業の規模

設立	昭和36年6月5日
資本金	4,500万円
本社従業員数	26名(H29/1)
総従業員数	103名
本社事務所延べ床面積	1,163 m ²

(6)事業内容

各種農業機械、公園緑地管理機械の販売 修理
農業資材、肥料、農薬、土壌改良材の販売
自動車、家電品、健康医療器、格納庫等生活関連商材の販売
ライスセンター、育苗プラント等の施設推進事業
コイン精米機事業、コイン無人販売機販売
損害保険、生命保険代理業務

事業活動の概要

(7)対象組織

本社事務所：認証・登録日：2006年3月30日

本社整備工場（2007年認証登録）

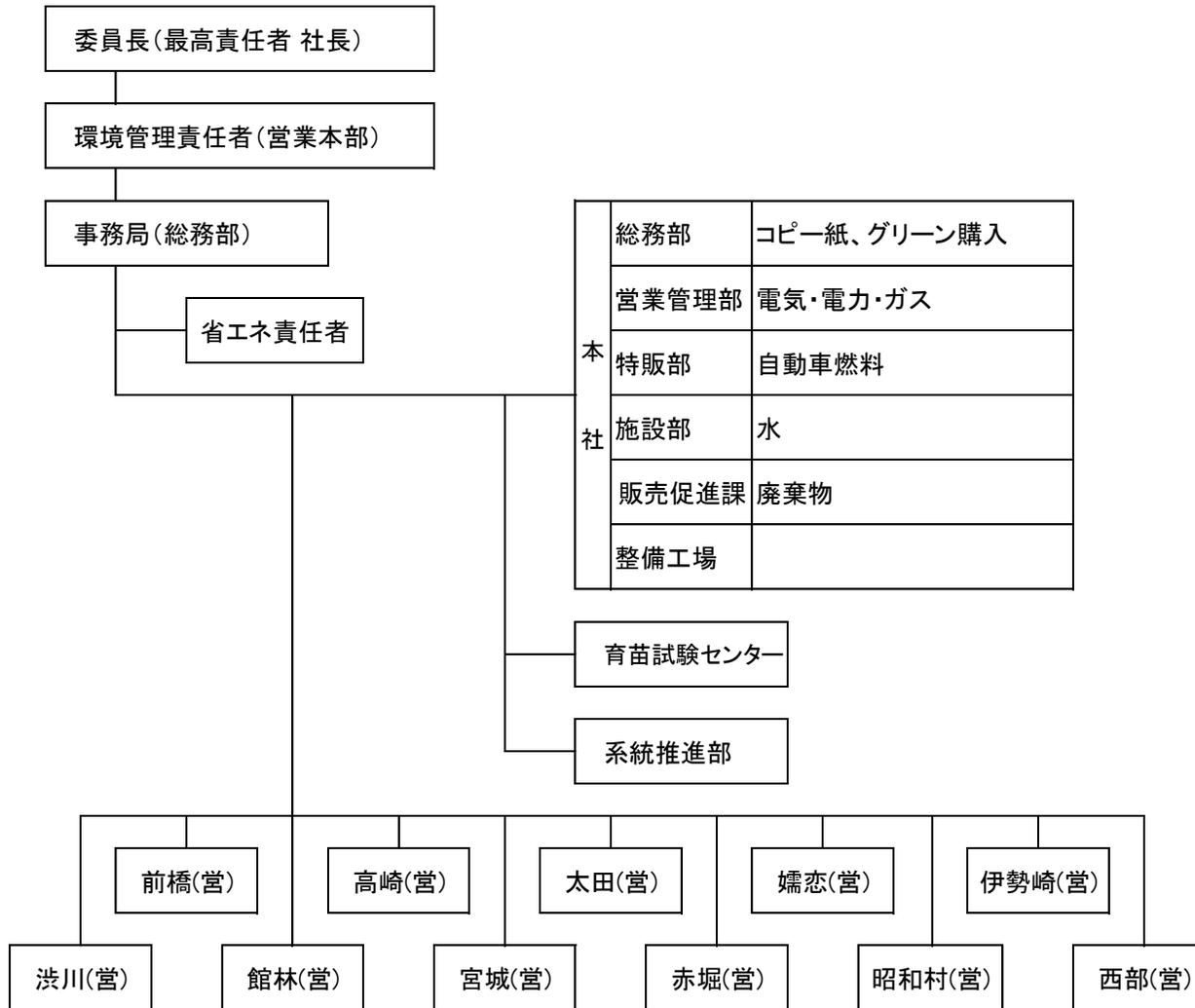
前橋営業所（2012年3月認証登録）

高崎営業所、太田営業所、嬬恋営業所、伊勢崎営業所、渋川営業所、館林営業所、宮城営業所

赤堀営業所、昭和村営業所、西部営業所、育苗センター、系統推進部

（2016年3月認証登録）

環境活動の実施体制



環境活動計画

管理部署	取組項目	取組事項
総務部	コピー用紙の管理 再生品の購入 グリーン購入	コピー、印刷の適正化、ミスコピーの防止 両面コピー、裏面利用の推進 古紙及び再生紙の推進 リサイクル品の推進 グリーン購入の推進
営業管理部	電力の使用 ガスの使用	照明機器管理 照明点灯箇所のチェック スイッチの管理 運転時間の適正化 室内温度のチェック 空調機器の管理 自然光を取り入れる工夫
施設部	水の使用	日常的な節水の推進 毎月のメーター確認(漏水チェック)
販売促進部	廃棄物	マニフェストの管理 収集場所の整理整頓 処分業者の処理場見学
特販部	自動車の燃料	暖気運転の抑制 急発進急加速の抑制 運転記録簿の管理 走行距離の把握管理
営業所・修理工場	上記全般 作業場での環境負荷の軽減	上記全般 近隣住民への騒音、悪臭等の防止 危険物等の使用及び管理 廃油の取扱い 工場内の整理、整頓、清掃

環境目標(本社)

項目	目標
地球温暖化防止	エネルギー起源のCO2排出量削減
水使用量削減※	水使用量削減
廃棄物削減	排出量削減
グリーン購入	グリーン購入の推進
環境配慮製品	環境に配慮した製品の販売促進

項目	基準値	中長期単年度目標「本社」					最終目標
		2016	2017	2018	2019	2020	
電力 (kWh)	80,101	79,059	78,098	77,217	76,336	75,455	75,478
		1.3%	2.5%	3.6%	4.7%	5.8%	
LPガス (kg)	170.6	166.3	162.0	157.9	153.8	149.7	149.0
		2.5%	5.0%	7.4%	9.8%	12.2%	
車燃料 (リットル)	25,932	25,672	25,413	25,231	25,076	24,946	24,928
		1.0%	2.0%	2.7%	3.3%	3.8%	
二酸化炭素 (kg-co2)	97,327	96,353	95,380	94,407	93,433	92,460	92,711
		1.0%	2.0%	3.0%	4.0%	5.0%	
コピー用紙 (枚)	90,830	89,013	87,196	85,834	84,471	83,563	84,000
		2.0%	4.0%	5.5%	7.0%	8.0%	
水 (m3)	526	512	499	486	476	465	468
		2.5%	5.0%	7.5%	9.5%	11.5%	
産業廃棄物 (トン)	40.5	39.8	39.4	39.0	38.6	38.2	38.2
		1.5%	2.5%	3.5%	4.5%	5.5%	

【基準値と最終目標の設定】

- ・基準値：前期の中長期の平均値
- ・目標値：前期の中長期の最も成果を上げた年度

環境目標(営業所)

項目	基準値	中長期単年度目標「本社以外」					最終目標
		2016	2017	2018	2019	2020	
電力 (kWh)	65,489	64,834	64,179	63,524	62,869	62,214	62,215
		1.0%	2.0%	3.0%	4.0%	5.0%	
従量電灯 (kWh)	86,546	85,680	84,815	83,949	83,084	82,218	82,218
		1.0%	2.0%	3.0%	4.0%	5.0%	
LPガス (kg)	752.1	744.5	737.0	729.5	722.0	714.4	714.4
		1.0%	2.0%	3.0%	4.0%	5.0%	
車燃料 (リットル)	93,848	92,909	91,971	91,032	90,094	89,155	89,156
		1.0%	2.0%	3.0%	4.0%	5.0%	
二酸化炭素 (kg-co2)	298,420	294,435	292,451	289,467	286,483	283,499	283,499
		1.0%	2.0%	3.0%	4.0%	5.0%	
コピー用紙 (枚)	59,065	58,474	57,883	57,293	56,702	56,111	56,112
		1.0%	2.0%	3.0%	4.0%	5.0%	
水 (m3)	2,720	2,692	2,665	2,638	2,611	2,584	2,584
		1.0%	2.0%	3.0%	4.0%	5.0%	
産業廃棄物 (トン)	161.37	159.7	158.1	156.5	154.9	153.3	153.3
		1.0%	2.0%	3.0%	4.0%	5.0%	

【基準値と最終目標の設定】

- ・基準値：2015年
- ・目標値：2015年から5%削減

環境活動取組結果:本 社

項目	単 位	2016 年	2017 年		結 果(増減率)		1人あたり年間使用料		
		実績	目標値	実績	対前年	対目標	2016 年/25.1 人	2017 年/26.3 人	
使用量	電 力	KWh	74,231	78,098	74,869	0.9%	▲4.1%	2,957	2,846
	ガ ス(LPG)	kg	116.3	162.0	103.9	▲10.7%	▲36.0%	4.6	4.0
	自動車燃料	リットル	21,929	25,413	21,137	▲3.6%	▲16.8%	※874	※1,112
	水	m3	473	499	420	▲11.2%	▲15.9%	19	16
	廃棄物	トン	38.9	39.4	40.6	4.3%	2.7%	1.5	1.5
	コピー用紙	枚	89,000	87,196	87,500	▲1.7%	0.3%	3,546	3,327
CO2 排出量	電 力	kg-CO2	36,809	33,361	37,135	0.9%	11.3%	1,466	1,411
	ガ ス(LPG)		349	503	312	▲10.6%	▲37.9%	13	11
	自動車燃料		52,859	61,517	51,367	▲2.8%	▲16.5%	※2,642	※2,703
	総排出量		90,017	95,380	88,814	▲1.3%	▲6.9%	—	—
※12月末の保有台数:2016(20)、2017(19)									
2016 年から排出量を把握する際に用いた電力の排出係数は、0.496(kg-CO2/kWh)									

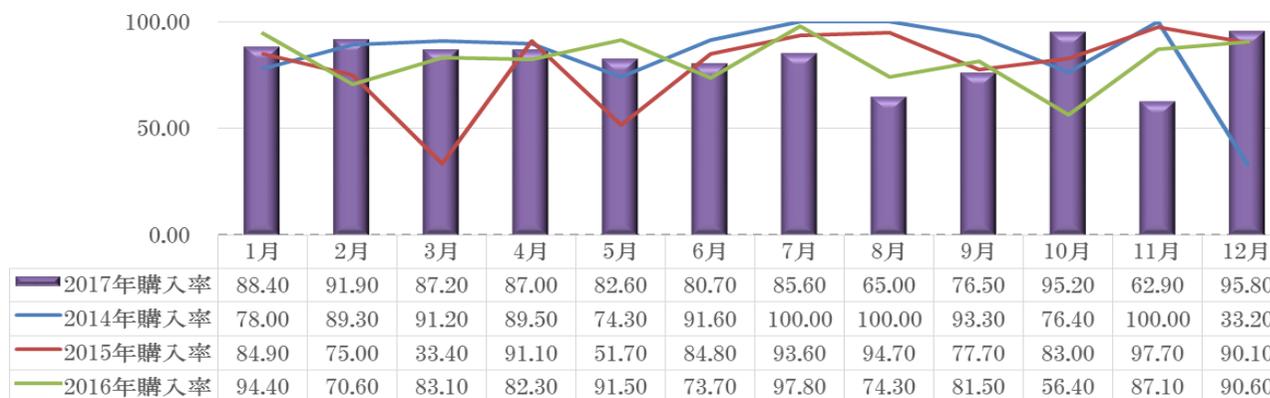
環境活動取組結果：営業所ほか

項目	単位	2016年	2017年		結果(増減率)		1人あたりの年間使用料		
		実績	目標値	実績	対前年	対目標	2016年/78.5人	2017年/76.3人	
使用料	低圧電力	KWh	61,277	64,179	57,564	▲6.1%	▲10.3%	781	754
	従量電灯BC		86,237	84,815	81,196	▲5.8%	▲4.3%	1,097	1,064
	ガス(LPG)	kg	770.1	714.5	687.3	▲10.8%	▲6.8%	9.8	9.0
	自動車燃料	リットル	91,136	89,156	96,844	6.3%	5.3%	※1,231	※1,327
	水	m3	2,577	2,666	2,502	▲2.9%	▲6.1%	32.8	32.8
	廃棄物	トン	189.7	158.1	132.2	▲30.3%	▲16.4%	2.4	1.7
	コピー用紙	枚	58,200	56,112	55,700	▲4.3%	▲3.8%	741	730
CO2排出量	電力	kg-CO2	74,295	63,322	72,690	▲2.2%	14.8%	946	952
	ガス(LPG)		2,312.4	2,212.6	2,063.3	▲10.8%	▲6.7%	29.5	28.3
	自動車燃料		224,553	227,141	242,088	7.8%	6.6%	3,035	3,173
	総排出量		301,161	292,452	316,842	5.2%	8.3%	—	—
※12月末の保有台数：2016(74)、2017(73)									
2016年から排出量を把握する際に用いた電力の排出係数は、0.496(kg-CO2/kWh)									

環境活動取組結果

グリーン商品購入率

環境配慮		2016年実績	2017年実績
グリーン購入	購入率	82.2%	84.8%



環境配慮製品販売実績

キセキ・エコ認定商品

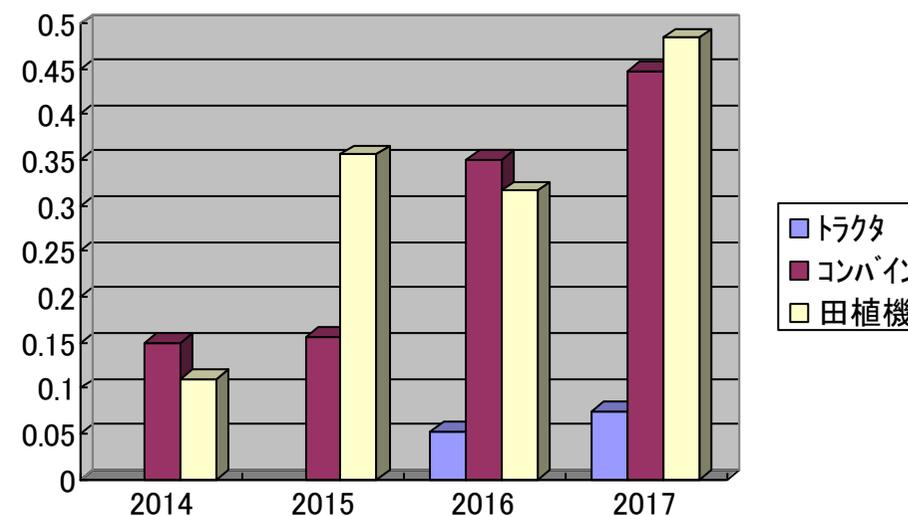
トラクタ NTA シリーズ

コンバイン HFC・HFR シリーズ

田植機 NP50～80

エコ認定商品販売率

	2014	2015	2016	2017
トラクタ			5.3%	7.5%
コンバイン	14.9%	15.6%	35.0%	44.7%
田植機	11.0%	35.6%	31.6%	48.4%



環境活動取組評価

担当部署	取組項目	評 価
総務部	コピー用紙 グリーン購入 再生品	☆コピー用紙 取組が定着化してきたなかで、この先成果へ結びつけるには限界がある。これからは組織的な取り組みに加え、各自が工夫した取り組みをすることで成果へ繋げたい ☆グリーン購入 購買担当者が環境に配慮した商品を購入するよう心掛けているが、費用面も考慮しているため評価し難い
営業管理部	電 力 ガ ス	☆電力 2011年にデマンドを設置してから6年順調に推移している。これはデマンドによる監視と空調機の設定温度を社員が徹底できていることが成果に繋がっている。この成果を長期的なものしていくためにも、社員のモチベーションを維持することが必要不可欠である ☆ガス 2016年から屋外湯沸し器の使用期間を設定し2017年は年間通じて使用しなかった。結果2016年、2017年は2015年対比で大幅に減少したことや、また制限しても業務上の問題や再開の要望がなかったことから大きな成果と発見と思い、取組を継続していきたい。また社員の取組のタイマー管理と湯沸し時の水量調整も続けていきたい

環境活動取組評価：本社

担当部署	取組項目	評 価
施設部	水	主な使用は社員の飲料、食器洗い、整備機械の洗車等 2011年9月に漏水工事を行い、2012年の大幅な減少からほぼ横ばいの数値であるが、2017年は2005年の開始から使用量を最も少なく抑えることができた。 その要因は、湯沸しの水量を必要最小限にしたことが考えられる。2017年の成果を社員に周知し自発的行動につなげたい
販売促進部	廃棄物	製品・部品の仕入及び販売から出る梱包材や修理・整備から出る廃棄物等、仕事量に応じて変動するため排出量の増減からは評価できない。 2018年の取組は、本社管轄の処理場が分別に厳しくなったため社員の分別意識を高める推進をしていく
特販部	自動車の燃料	2015年から始めた車両ごとの燃費計算が運転者の意識向上につながり、2016年は成果を上げ、2017年も意識が継続できた結果だと言える。実績は昨年と比べ若干減少はしているが保有台数が1台減ったことが要因である
全社	製品	環境配慮商品の販売推進
	グリーン購入	事務用品等の環境対応商品の優先購入
	環境関連法規の遵守	産業廃棄物の適正処理、マニフェストの交付
		汚水、廃油等の漏れ等による環境汚染防止
	緊急事態への対応	年一回、火災・オイル漏れ時の訓練の実施
社員教育	朝礼の活用、所内での掲示	

環境活動取組評価

担当部署	取組項目	取組項目	評価
営業所 整備工場 系統推進部 育苗センター	省エネ 省資源	電力使用量の削減 運転時間の適正化、適温励行(夏 28℃、冬 23℃) エアコンのフィルタ清掃 無人エリア消灯の徹底	2016 年のスタートから2年目を迎えたが、エコアクションの活動と、その意識がまだまだ不十分である。取組は理解しているが、自発的行動に移せていない現状は長期的な取り組みにブレキになるため、その課題を早急にクリアし、無理なく負担のない活動をエコアクションの取組として展開していきたい
		水道使用量の削減 節水意識の啓発	
		ガス使用の節約 使用の適正化	
		車輛燃料の節約 運転記録簿 エコドライブ 10 の取組 適正な車両整備(自社・会社)	
	廃棄物	排出量の削減 分別収集の徹底 収集場所の整理整頓	
		コピー用紙の削減 両面印刷、裏面利用 使用済封筒の再利用	
		リサイクル、リユースの推進 リサイクルトナーの使用	

環境関連法規への違反、訴訟の有無

関係する環境関連法規	要 求 事 項
毒劇法	盗難防止に施錠、容器や貯蔵場所には適切な表示
廃棄物処理法	産業廃棄物処理業者と委託契約を締結しマニフェストの管理を徹底する。またゴミの分別を徹底することやゴミ置き場とその周辺の整備に努める
家電リサイクル法	使用している家電製品をなるべく長期間使用することにより、廃棄物の排出を抑制するよう努める。 また排出時には小売業者への適切な引渡し及びリサイクル料金を支払
自動車リサイクル法	自動車をなるべく長期間使用することにより、使用済自動車となることを抑制するよう努める。 また資金管理人への再資源化等預託金の預託義務と引取業者への使用済自動車の引渡しを義務とする
消防法	市火災予防条例に基づく少量危険物の取扱に関する事項の遵守。また当社の消防計画に沿って避難訓練を実施し、計画が効果的かの見直しを図る。
フロン回収破壊法	特定製品が廃棄される場合、フロン類の適正かつ確実な回収、破壊及び排出の抑制に必要な措置を講ずる
悪臭防止法	整備工場において悪臭が発生すると思われる作業については防止対策を講ずる。
浄化槽法	保守点検及び清掃
小型家電リサイクル法	再資源化を適正に実施し得る者に引き渡すよう努める
フロン排出抑制法	第一種特定製品(対象設備)の把握と簡易点検の実施及び記録簿の保存

当社に適用される主な環境関連法規は以上の通りです

当社に関する環境法規に対しての違反の事実や、関係機関等から環境関連法規等の違反についての指摘等は現在のところありません

又、訴訟等も同様にありませんでした

総 評

エコアクションの活動も本社ではすっかり根付いており、あまり意識もなく取組が継続されているものの、まだ取組間もない営業所ではまだまだ課題が多いと言える。常に意識付けする部署や担当者がいないと、取組自体を忘れてしまい、1年経過して結果を知らされてやっと再認識するといった感がある。できれば四半期あるいは半期にでも見直すタイミングを設けていきたい。

詳細を見ると、本社の給油量(燃料消費)や電気量などには更なる改善が見られ、燃費の追及や多少の暑さ寒さを耐え忍んでの結果ともいえるがやはり全体的に本社は意識が高い。また、本社廃棄物排出量なども、一見減っていないように見えるが、営業所の廃棄物を受け入れているからであり、今後も本社は率先して活動をリードして行きたい。反面、営業所は個々に見れば多少改善されたところもあるが、総じて本社に持ち込んでいる廃棄物は別として、電気・ガス・燃料等あまり改善が見られていない。

今後は、本社外の営業所へ向けての意識改革と取扱商品のエコ化比率を高めるための努力を重ね、外に向けたエコアクションに全社を挙げて取り組んでいきたい。